

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1 授業改善に努め、「わかる授業」、「考える授業」を実践し、学力の向上を図る。	① 習熟度別・少人数授業を効果的に実施し充実させる。	教務課 各教科	学力向上拠点形成事業の後、定着した研究授業に加えて、より効果的な習熟度別・少人数授業の実施が求められている。	【満足度指標】 習熟度別・少人数授業により学習意欲が高まり、学力を伸ばすことができる。	習熟度別・少人数授業の実施により、よく分かった、意欲がわいたとする生徒が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は改善策を検討	7月、12月実施
	② 生徒による授業評価を活用し、授業改善に役立てる。	教務課 各教科	各教員・教科の問題点を客観的に把握でき、授業改善のために有効である。	【満足度指標】(生徒) わかりやすい授業により学習意欲が高まり、積極的に授業に参加することができる。	授業評価の基準で総合評価が「非常に良好」と「良好」である教諭の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	教科別の評価で、CまたはDの場合はその教科で改善策を検討	7月、12月実施
	③ 学習習慣の定着を図る。	教務課	前年度の評価結果は概ね良好であるが、さらに学習時間を増やすため、課題の工夫など各教科における工夫が求められている。	【成果指標】 十分な学習時間が確保され、継続的な学習が定着している。	各クラスの平均家庭学習時間が、1・2年生で2時間以上、3年生で3時間以上確保している生徒が、 A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満	各クラスの評価をA4点、B3点、C2点、D1点とし、その平均が2.5未満ならば改善策を検討	7月下旬、12月上旬実施
	④ 思考力・表現力の育成のため、3年間を通した小論文指導を行う。	進路指導課 教務課 各学年	「総合的な学習の時間」やSTの時間などを基礎知識の習得・社会的関心の育成の場として活用し、小論文の学力向上のための学びの機会を増やす必要がある。	【成果指標】 年2回の小論文模試の結果が全国平均を上回る生徒の割合を増やす。	小論文テストの判定が標準以上の生徒が、 A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	CまたはDの場合は改善策を検討	7月、10月実施
	⑤ 授業において情報機器を効果的に活用する。	情報室 各教科	情報機器を活用する教員は増えたが、使用頻度は低く、機器活用による教育効果の向上にまでは至っていない。	【努力指標】 各教科で授業を進める際、情報機器を導入することを推進する。	授業で情報機器を A 月1回程度使用した B 学期に1回程度使用した C 年に1回程度使用した D 情報機器を使用しなかった (※情報機器に視聴覚機器も含む)	A4点、B3点、C2点、D1点とし、全職員の平均が1.5未満の場合は改善策を検討	校内「IT講習会」の継続・充実 8月中旬・11月下旬 実施

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判定基準	備考	
2 生徒一人ひとりの個性にあった進路設計をうながし、生徒の進路実現率を高め	① 定期的な進路情報の提供に努め、進路ガイダンスを充実させる。	進路指導課 各学年	毎月1回以上「進路だより」を発行するなど、生徒の進路設計の意欲を引き出す工夫を続けてきた。生徒向け進路ガイダンス以外に、教職員の研修会の充実も必要である。	【努力指標】 生徒の意欲を引き出す進路別ガイダンスが実施できる。	適切な進路ガイダンスが実施できる A よくあてはまる B 概ねあてはまる C あまりあてはまらない D 全くあてはまらない	評価をA4点、B3点、C2点、D1点とし、平均が2.5未満の場合は改善策を検討	12月中旬実施	
				【満足度指標】(生徒) 自らの進路を真剣に考え、具体的な進路設計に取り組むことができる。	自分の進路について A 真剣に考え、進路設計に取り組むことができた B 概ね真剣に考えることができ、進路設計に取り組もうとした C あまり真剣に考えることができなかった D 真剣に考えることができなかった	A4点、B3点、C2点、D1点とし、平均が2.5未満の場合は改善策を検討	各取組後実施	
				【満足度指標】(保護者) 進路情報の提供やきめ細かな個別指導など、適切な進路指導が行われている。	生徒に対する進路指導が A 適切である B 概ね適切である C あまり適切でない D 適切でない	各クラスの評価をA4点、B3点、C2点、D1点とし、平均が2.0未満の場合は改善策を検討	12月下旬実施	
	② 生徒の進路目標の実現率を高める。	進路指導課 各教科 各学年	進路希望調査で書いた第1志望の実現率が低い。実現するための意欲や学力をつける必要がある。	【成果指標】 3年第2回進路希望調査の第1志望の実現率を高める。	生徒の第1志望の実現率が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	CまたはDの場合は改善策を検討	3月下旬実施	
	③ 国公立大学への志望者数を増やし、合格者数を増やす。	進路指導課 各教科 各学年	出席確認により参加率は良い結果を得た。生徒により高い目標を持たせ、補習の内容を充実させることで、意欲的な参加を実現させる必要がある。	【満足度指標】 参加した生徒が充実感を味わうことができる。	全学年で土曜補習や夏季補習に満足している生徒の割合が A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	CまたはDの場合は改善策を検討	8月下旬実施	
				21年度センター試験で得点が全国平均を上回る生徒が増加した。	【成果指標】 大学入試センター試験の得点が全国平均点以上の人数を増加させる。	センター試験の得点の平均点偏差値50以上の生徒が A 20人以上 B 15人以上 C 10人以上 D 10人未満	CまたはDの場合は改善策を検討	1月下旬実施
				前年度に比べて金沢大学と石川県立大学の合格者数が大きく伸びたが、富山大学は減少した。2次試験に対応できる学力の養成が必要である。	【成果指標】 国公立大学の合格者を増加させる。	国公立大学合格者数が A 60人以上 B 50人以上 C 40人以上 D 40人未満	CまたはDの場合は改善策を検討	3月下旬実施

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判定基準	備考
2 生徒一人ひとりの個性にあった進路設計をうながし、生徒の進路実現率を高める。	④ 生徒の良好な人間関係作りを支援する。	相談室 生徒指導課 各学年	人間関係作りの問題を抱える生徒に対応するため、生徒・保護者との信頼関係の構築と教員間の連携が重要になっている。	【努力指標】 Q-Uで「要支援生徒」を把握し、支援するための面談の実施率を高める。	面談実施率が A 70%以上 B 50%以上 C 30%以上 D 30%未満	CまたはDの場合は改善策を検討	3月下旬実施
			顕著ないじめへと発展する前の対応はできたが、根絶に至っていない。	【努力指標】 担任の情報交換やアンケートの実施により、いじめの有無を常に把握する。	いじめが A ない B 1件あった(ある) C 2件あった(ある) D 3件以上あった(ある)	Aでなければ改善策を検討	実態調査 7月、3月実施
3 生徒の自主的な活動を支援し、自律心を高めるとともに、たくましい人間の育成に努める。	① 体育授業時に運動量を確保し、体力の向上を図る	保健体育科	生活の中で運動時間が減少と体力の低下傾向がある。	【努力指標】 体育授業で毎時間体づくり運動を実施する。	新体力テスト(シャトルラン)で、1回目よりも向上した生徒が A 75%以上 B 50%以上 C 25%以上 D 25%未満	CまたはDの場合は改善策を検討	4～5月、12月実施
			② 部活動の加入をうながし、学校全体の活性化を図る。	生徒会課 各学年	部内の人間関係に悩んだり、勉強との兼ね合いが難しかったりして、後半になると部活動加入率が漸減する傾向がある。	【努力指標】 部活動加入率の向上を図り、活力ある学校づくりをめざす。	部活動加入率が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満
	【満足度指標】(生徒) 部活動に積極的に参加し、充実した学校生活を送っている。	学校生活が A 非常に充実している B 充実している C あまり充実していない D 全く充実していない			A4点、B3点、C2点、D1点とし、平均が2.5未満の場合は改善策を検討	部活動に対する意識調査 6月上旬実施	
③ ボランティア活動への自発的な参加を促す。	生徒会課 各学年	ボランティア部が中心となって活動し成果をあげているが、今後も全生徒への啓発や保護者への呼びかけが必要である。	【努力目標】 ボランティアにつながる活動に積極的に参加している。	生徒がボランティアに関連のある活動に、 A 5回以上参加した B 3回以上参加した C 1回以上参加した D 参加しなかった (活動例)募金、地域の一斉清掃、除雪当番、プラタブ回収、啓発講演会	A4点、B3点、C2点、D1点とし、平均が2.5未満の場合は改善策を検討	2月下旬実施	

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判定基準	備考
3 生徒の自主的な活動を支援し、自律心を高めるとともに、たくましい人間の育成に努める。	④ 全員一斉清掃の徹底により美化意識を高める。	保健環境課 各学年	1人の教員が複数箇所を同時に監督するため、徹底が難しい面がある。今後も教員数の減少が予想されるので対策を講じる必要がある。	【努力指標】 監督責任箇所の指導及び点検が確実に行われている。	A 常に監督箇所に出向き十分に指導、点検している B 監督箇所に出向き点検しているが、生徒の指導は十分ではない C 時々、監督箇所に出向き点検している D 指導も点検も十分していない	A4点、B3点、C2点、D1点とし、平均が2.5未満の場合は改善策を検討	指導・点検状況調査 12月上旬実施
	⑤ 危機管理意識を高め、事故の防止と発生時の対応に万全を期す。	総務課 生徒指導課 保健環境課	教員の意識は喚起されつつあり、緊急時の対応訓練も定着してきており、さらなる充実を目指す。	【成果指標】 不慮の事故防止のための研修・実地訓練がなされている。	危機管理に関する校内教職員研修・訓練を A 年間5回以上行う B 年間3～4回行う C 年間1～2回行う D 全く行わない	CまたはDの場合は改善策を検討	12月上旬実施
	⑥ 生徒の読書を促進する。	図書課	各種企画・掲示物を通じて読書の促進に努めているが、図書の利用状況は横ばいである。	【成果指標】 生徒が積極的に図書を利用している。	全学年の生徒一人あたりの年平均貸出冊数が A 3.5冊以上 B 3.0冊以上 C 2.5冊以上 D 2.5冊未満	CまたはDの場合は改善策を検討	実態調査 7月、3月実施
	⑦ 保護者にPTA主催行事や学校行事に積極的に参加してもらう。	総務課 生徒会課 各学年	年々参加率は高まっているが、保護者の学校に対する理解と信頼をより深めてもらうために、より多くの保護者の参加が必要である。	【努力指標】 学校の教育活動についての理解と協力を得るため、機会あるごとに参加してもらう。 学校規模のPTA活動に生徒が参画する機会を設定する。	総会、学年別懇談会、公開授業、教育ウィークにおける保護者の延べ参加率が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	CまたはDの場合は改善策を検討	11月中旬実施
【努力指標】 PTAと生徒がともに活動する機会を設定する。				「朝の挨拶運動」における保護者の参加率が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	CまたはDの場合は改善策を検討	12月上旬実施	